
第1章 はじめに

1. ふくしま水道事業ビジョン策定の目的
2. 計画の位置づけ
3. 計画期間

第1章 はじめに

1. ふくしま水道事業ビジョン策定の目的

福島市水道局は、今後の水道に関する重点的な政策課題とその課題に対処するための具体的な施策等を包括的に明示する「福島市水道事業基本計画」を平成18年6月に策定しました。

計画策定から9年が経過し、本市の水道は良質で安定した摺上川ダムを水源とした福島地方水道用水供給企業団からの本格受水を開始し、長期安定的な供給体系が確立されると共に本格的な維持管理の時代へと移行しましたが、人口減少社会の到来や東日本大震災の経験など、水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、転換期を迎えております。

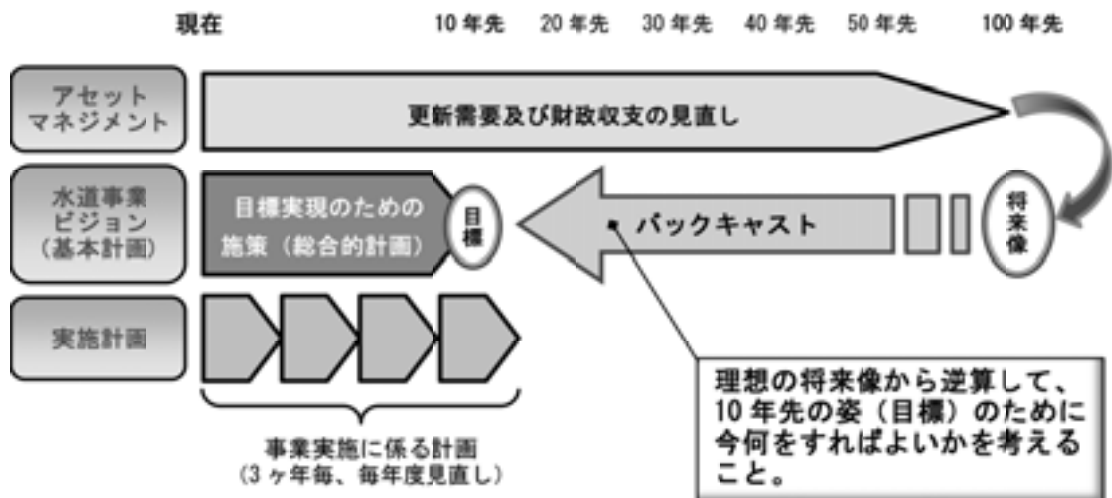
厚生労働省では、このような社会情勢の変化を踏まえ、これまでの水道ビジョンの改訂ではなく、来るべき時代に求められる課題への対処として平成25年3月に新たなビジョン「新水道ビジョン」を公表し、給水人口や給水量の減少を前提とした老朽化施設の更新需要への対応や、東日本大震災の経験を踏まえた災害対策の抜本的な見直しと危機管理対策の構築を喫緊に求めており、これから50年後、100年後の将来を見据えた水道の理想像を掲げ、その理想像を具現化するために今後取り組むべき事項と方策が示されました。

今回策定する「ふくしま水道事業ビジョン」は、国の「新水道ビジョン」を反映した新たな水道事業基本計画となりますが、従前の計画・事業についても適切に継承するものであり、福島市民の生活や経済活動を支えてきた水道の恩恵を、市民が今後も継続的に享受し続けることができるよう、100年後の将来を見据えた本市水道の理想像を明確なものとし、理想の実現に向けてバックキャストした今後10年間に關する新たなビジョンを策定するものです。

『計画策定の骨子』

- 新水道ビジョンの反映（社会情勢の変化への対応）
- 福島市総合計画（基本構想2011-2020）との整合
- 福島市水道事業基本計画の事業継承（進捗状況を踏まえた見直しを含む）
- 福島市水道事業経営計画との連携

バックキャストの概念図

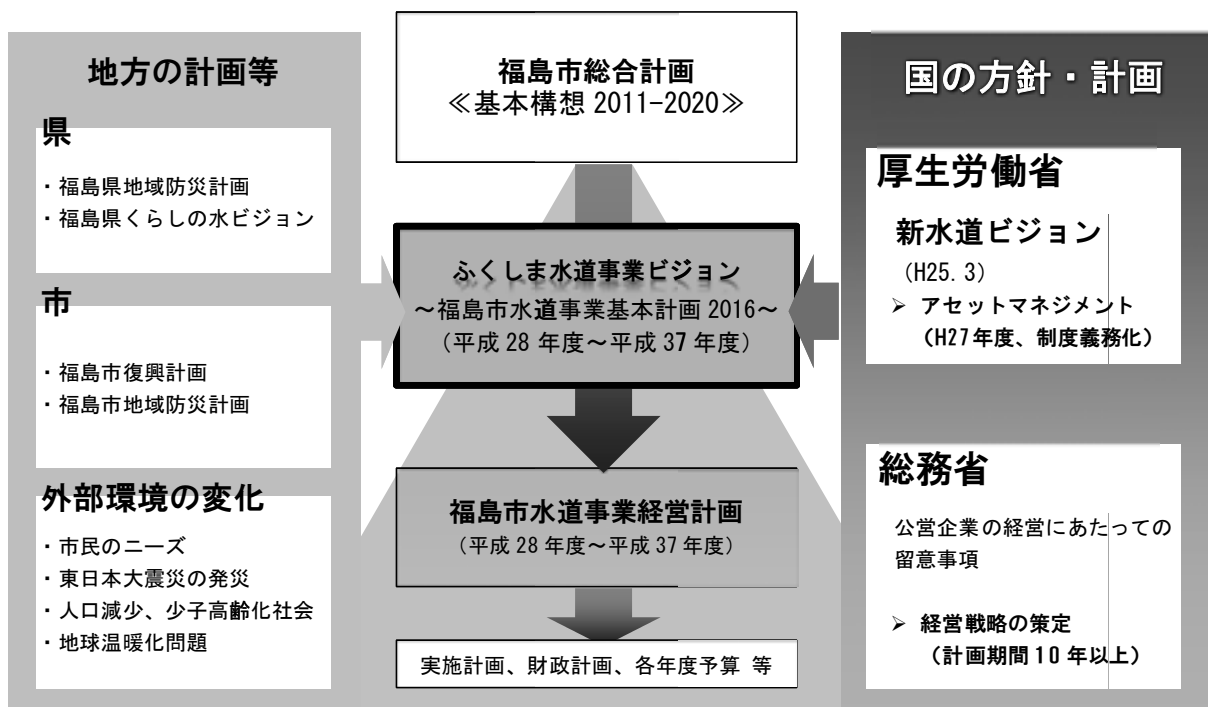


2. 計画の位置づけ

「ふくしま水道事業ビジョン」は、上位計画である「福島市総合計画（基本構想2011 - 2020）」のもと“美しいまち”水道水の安定供給の実現を目指しています。この計画は、本市水道事業の100年後の水道の理想像からバックキャストした今後10年間に取り組むべき課題への対応を図り、持続可能な水道事業を確立するため、新たな挑戦を含めた今後の水道事業の指針となるものです。

また、「ふくしま水道事業ビジョン」に基づいた同一計画期間における「福島市水道事業経営計画」を併せて策定することで、本市水道事業の10年後に到達すべきポジションまで確実に各事業を達成するため、理想像の具現化に向けた財政面との整合を図るものです。

計画の概念図



3. 計画期間

「ふくしま水道事業ビジョン」の計画期間は、従前の「福島市水道事業基本計画」の平成27年度完了を受け、平成28年度から平成37年度までの10年間とします。

また、上位計画である福島市総合計画との整合を図りながら、5年間経過時にあたる平成32年度には中間改訂を行い、計画期間の後半5年間における施策の方向性について、中期的構想に基づいた見直しを行います。

また、財政計画の基本計画に位置づけされる「福島市水道事業経営計画」との連携については、計画期間を同一期間として策定し、本計画と同様に平成32年度に中間改訂を行います。

なお、各施策の実行にあたっては、3ヶ年ごとの実施計画により具体的な事業の進捗状況を管理するとともに、水道事業を取り巻く社会情勢の変化や計画の進捗状況などに柔軟かつ適切に対応するため、単年度ごとに評価指標と目標値の検証を行い、ローリング方式により毎年度内容を見直します。

